8月15日

終戦記念日

『八月十五日』きようは何の日

毎年 8月15日はやって来る。
昭和20年のこの日は、明治維新と並ぶ日本の一大転換点となった日である。
ラジオでは前日から“明日の正午には重大発表があるから、国民はすべて聴くように”と、何度も繰り返し放送をしていた。
“最後の決戦だ！こぞって奮起するよう「檄」の話だろう”と考え、当時の人々は真剣な眼差しでこの放送に耳を傾けたのである。

毎年この時期になると気になるは、総理大臣靖国神社の公式参拝である。
民主党政権になってから、首相を初め各閣僚は一人も参拝はしていない。
ことに現野田総理は、前の菅首相とは違って“我が国にはＡ級戦犯などは存在しない”と言う趣旨の意見を、野党時代の国会で発言しているにもかかわらず。

かく言う吾輩は今迄随時参拝はしてきたが、小渕内閣の時代に有志たち数千人と、日比谷公園に集会を開き『総理の靖国神社公式参拝請願趣旨』を掲げ、同所から国会周辺を廻り、首相官邸までのデモ行進に参加したことがある。
今年はこの日、野田総理大臣の靖国問題における去就が、大いに気になるところである。
しかしこれを各マスメディアは全く無関心をよそうであろう。

ここで常に気になっているメディアの偏向性について触れてみたい。
一般に間違った報道はしていない、その限りではみな正しい。
しかし課題は、多くの事実の中で取り上げない、触れたがらない部分の意味である。
メディアが取上なければ、それは存在しない事になるからである。
従って受け留る側としでは、此の点をシカト見極めなければならない。

そこで話は飛ぶが、昭和23年に歌手の島倉千代子は『東京だよおっ母さん』を歌い大ヒットさせている。
同時に芝居や映画にもなってきている。
この歌をお千代さんがＮＨＫで唄うとき“いつも①番から③番に飛び②番は歌はしてもらえなかった”と、昔ある散髪屋で立ち読みをした雑誌の中で読んだことがある。

その時の彼女は、理由が②番の詞に「あれが九段坂」という一行や“ネエおっ母さん戦争で亡くなった兄さん、此処に祀られているのよ”と言うセリフがあるからだったと、後で知ったとも述べていたのである。

またＮＨＫラジオで、高齢者には人気のある『ラジオ深夜便』と言う番組、その3時台には「日本の歌心の歌・真夜中歌の饗宴」と言う一時がある。

ここでは毎日毎晩歌手別、作詞作曲者別、年代年次別、その他諸々の切り口から、昔の懐かしい歌が、これでもかこれでもかと、繰り返し取上られている。
だがここで決して出てこない切り口が唯一つだけある。
そんな歌は昔から存在しなかったと言わんばかりの無視である。
それは明治以来、唱歌として西洋音楽の普及に取り入れられた『いくさ歌』や、戦前戦中に歌った『軍歌』『戦時歌謡』の類いである。

軍隊を持ったり戦意高揚歌を謳うと戦争に繋がる、と言う思い又はその与論に迎合してであろう。
これは全くの間違いとは言わないが大いに飛躍が過ぎる。
国民の知りたい聞きたい権利を一方的に閉ざし、ＮＨＫの考えを公共放送を使って押し付ける結果となっており、いと腹立たしい。

ここで昭和14年発表『九段の母』（作詞:石坂秋二 作曲:能代八郎 歌:塩 まさる）を掲げ〆としよう。

①上野驛から九段まで
　勝手知らない焦ったさ
　杖を頼りに一日がかり
　伜来たぞや逢ひに来た
②空を衝くよな大鳥居
　斯んな立派な御社に
　神と祀られ勿體なさよ
　母は泣けます嬉しさに
③両掌合わせて跪き
　拝むはずみのお念佛
　ハット氣付いてうろたへました
　伜許せよ田舎者
④鳶が鷹の子産んだ様で
　今じゃ果報が身に餘る
　金鵄勲章が見せたいばかり
　逢いに来たぞや九段坂

【埋め草】
これは歌謡浪曲調の軍歌とでも言うべき歌である。
そして戦後になって発売され菊地章子が唄う『岸壁の母』とは対をなす戦士の母を歌ったものである。

余談ながらもこの『岸壁の母』のモデルは、青函連絡船に乗務する夫を持った幡野いせと言う、函館には縁のある人である。
この伜は後に上海で生存していた事が分かったが、この彼の母はそれを知らずして亡くなっている。

この『ラジオ深夜便』も、近年は馴染のない歌が多くなり聴かなくなった。
我らが世代のナツメロは、せいぜい春日八郎や三橋美智也の時代迄で、北島三郎となるともうそれは圏外である。

夏草や兵どもが夢のあと　過ぎし夏の残映から

日本の戦争終結日とその国際標準

日本の敗戦によって大東亜戦争（同時に第二次世界大戦）は終了したが、戦勝国その他の第三国は、いつの時点をもってこの戦争の終了としてるのだろうか。

※昭和20年 8月14日：ポツダム宣言の受託を決める御前会議が、阿南(陸相)・豊田(軍令部総長)・梅津(参謀総長)の三人が反対し、東郷(外相)・米内(海相)平沼(枢密院議長）の賛成て賛否が同数になったので、鈴木首相議長の求めに応ずる形で昭和天皇が聖断を下し、この日の終戦詔書に御名御璽を印された。
そして同時に連合国側に受託の旨通知をする。
米国はこの日を以て直ちに日本の攻撃を中止したが、ソ連はまだ戦争を続行していた。
厳密に言えば、この日が日本の戦争終結日である。

※昭和20年 8月15日：昭和天皇による重大発表が、録音盤ではあるがＮＨＫラジオから全国に放送され、この日に国民は終戦を知ったのだ。

※昭和20年 8月16日：この日、大本営は陸海全軍に向かって、停戦と武装解除命を発した(受諾した無条件降伏は陸海軍隊に対するもので、日本国の無条件降伏ではない)。

※昭和20年 9月 2日：この日東京湾上に停泊中の米国戦艦ミズリー号上で、日本政府代表重光外務大臣によって降伏文書に調印、国際法上正式に終戦が成立した。

※昭和26年 9月 8日：サンフランシスコで、対日講和会議に於いて、平和条約に吉田茂が代表として調印する。

※昭和27年 4月28日：サンフランシスコで調印した講和条約が、この日をもって発効した。

『 8月15日』は、国際外交上では終戦の意味はないようである。
しかし一方、この日を公式な終戦日とした国は、日本以外に「光復節」の韓国と「解放記念日」とする北朝鮮だけである。
米国をはじめ連合国に於けるＶＪＤＡＹ、即ち終戦日は『 9月 2日』とするのが一般的である。
この戦争に於ける軍人軍属の靖国神社合祀総数は、昭和52年の厚生省に於ける調べでは、約二百三十万余柱(朝鮮台湾出身者も含む)となっている。

この書を読んで、私達は 12 月 8 日の開戦そしてこの 8 月 15 日終戦を迎えた事の思いを、戦争を絶対にしてはならないこと再確認し、この戦争の愚かさ悲惨さを訴える事を、風化させてはならないと私は思います。

小林　肇